

型友禪の絵刷に使用された色材の材質的特徴について

京都芸術大学大学院 修士1回 根岸カノン

1、研究目的

型紙を用いて文様を染める型友禪は明治時代の初期に京都で開発されたと言われている。株式会社千總には、型友禪の見本の布である「型友禪裂」や、型友禪製造に関係する絵刷が所蔵されている。昨今、近代染織品に関する研究の関心が高まっている中で、株式会社千總所蔵の友禪裂は複数の大学の専門家によって調査研究が実施されていきたが、型友禪の絵刷の色材について調査された事例はない。以上のことから、本研究は絵刷に使用された色材に注目し、明治期の絵刷、友禪裂とデザイン等が照合されている絵刷を対象に使用された色材について光学的手法を用いて特性化を試みた。

2、対象試料について

絵刷とは型友禪を作成する際、型紙を用いてデザイン（文様）を紙に摺り出したもので、型友禪の工程において、型紙の彫り具合やデザインを確認するために用いられてきたと考えられている。型友禪で1つのデザインを染めるためには、何十枚もの型紙が用いられる。しかし型紙単独では完成したデザインを確認しにくいために、型紙に伴って絵刷が制作されていたと言われている。使用された色材は染料の可能性が高いが、現代の型友禪工房見学の際に行なった職人の方々への聞き取り調査の結果から、工房ごとに使用されている色材は異なる可能性が高いと思われた。

本研究の対象は型友禪絵刷り集 冊子2、冊子4、冊子71、冊子99（株式会社千總所蔵）である。冊子は1冊に100枚前後の絵刷りが綴じられている。

3、分析調査方法

研究方法としては、分析機器を用いた材質調査を主軸とし、裏面に描かれている墨書の内容を用いながら歴史的考察を行なった。分析調査は2つの分析機器を使用した。

- 1) 蛍光 X 線分析装置 (XRF) : 検出元素による色材の推定
- 2) デジタルマイクロスコープ : 粒子観察による色材推定

3、観察および測定結果

【明治期の絵刷（赤色・青色部分）】

赤色、青色部分は冊子4番58頁、59頁を調査した。明治期の赤色からは高い強度の水銀の検出が認められた。赤色色材としては、伝統的な赤色として水銀朱などが存在するため、その使用の可能性が示唆された。また、青色色材からは高強度の鉄が検出された。鉄系青色色材としては、浮世絵などに多く用いられたプルシアンブルーなどが存在する。これらは明

治時代の作品のみから確認することのできる傾向であった。

【友禅裂と照合（同じ模様）された絵刷について（冊子 2、71、99）】

緑色色材部分に関しては冊子 2 番 74 頁、90 頁、98 頁、冊子 4 番 4 頁を調査した。友禅裂と照合されている絵刷の色材部分からはどれも鉛、ヒ素、水銀が確認されたが、このヒ素や鉛の検出強度が一番強かったのが緑色色材箇所であった。ヒ素由来の緑色色材としては、花緑青などがあり、青色と黄色の混色で作られた緑色の場合、黄色色材に石黄などが使用された可能性があるということを推測できた。

【自作サンプルの分析結果について】

現代の工房で実際に使用されている赤系染料 2 種、色のり 3 種、化学糊、コメ糊、実際に染め上げを行っている絹、普段絵刷りに使用する紙等を入手し、この絹、紙に材料を塗布して自作サンプルとし、その分析を行った。絹に関しては蒸し上げを行なった後洗い上げを行い XRF で分析を行なった。紙、絹サンプル共に絵刷の分析で特徴的であった鉛、水銀、ヒ素の検出は認められなかった。

4、考察と今後の課題

明治期の絵刷赤色部分からは水銀、青色部分からは鉄の検出が見られ、水銀朱やプルシアンブルーを色材として使用し、絵刷が製作された可能性があることがわかった。緑色色材からはヒ素、鉛が他の色材箇所よりも多く検出された。ヒ素系緑色色材の花緑青、青と黄色の混色の場合石黄などの使用の可能性があるため、黄色の粒子と共に今後も分析が必要である。上記を踏まえ自作サンプルの分析を行ったが、現代の型友禅で使用されている色材からは鉛、ヒ素、水銀のなどの検出は認められなかった。

各元素が絵刷を製作する際に用いられた色材に由来するのか、基底材として用いられた紙に含まれるのか、または劣化の過程で発生したものなのか、FT-IR などを用いた有機物の分析も行いながら今後も検証が必要であると考えている。他にも、紫、黄色、黒、白などの色材部分も調査を行ったが、今回の方法では顕著な特徴が見られなかったため、今後、分析機器を選択しながら、時代を追って分調査を行なっていくことが必要であると考えている。